

秋建時報

秋建時報

平成21年10月1日(第1186号)



発行／(社)秋田県建設業協会
秋田市山王四丁目3番10号
TEL 018(823)5495
FAX 018(865)2306



「紅葉」 絵・文…白澤 恵舟

NHK大河ドラマ「天地人」の中で、幼児の与六に、母親が庭にある紅葉を見上げて「木は厳しい冬を乗り越えるため、力を蓄える。燃え上がるこの色はわが命より大切なものを守るための決意の色」・・・と云い聞かせる場面がありました。私は深い静けさの中で来春の為に散ってゆく燃え上がる紅葉の季節になると、きつとこの言葉を思い出すに違いありません。

地方の立場

会長 菅原 三朗

戦後、初の政権交代により9月16日民主党鳩山政権が誕生した。就任早々、鳩山総理は国連気候変動サミットにおける「温室効果ガスを1990年比25%削減」を表明、各国から大きな拍手を浴びるなどその存在感をアピールし、また米オバマ大統領をはじめ中国・ロシア・韓国などの首脳会談を実現し、国際舞台へ華々しくデビューした。一方国内においては、各省担当大臣がマニフェストにかかげた難問に取り組みF1レースの選手のように一斉にダッシュ、その行動や発言は連日大きなニュースとして報じられている。

国の発展にとって欠かすことの出来ない地方の社会基盤整備が、小泉・竹中構造改革により公共事業は「増税なき財政再建」のため歳出削減のスケープゴートにされ、長年に亘り事業量の大幅削減が続く公共事業は無駄という間違った観念

が形成され、しかも規制緩和や無差別な市場原理による不適切な公共調達と相まって、地域防災の担い手である地元業界の疲弊のみならず都市と地方の格差拡大を招き、地方経済の衰退や地域コミュニティの崩壊という、国の発展とは逆の事態を引き起こしてしまった。

このような中で新政権の社会基盤整備の主な政策は、公共事業の見直しとして八ッ場ダム・川辺川ダム建設を中止するなど、全国143ヶ所のダム事業を治水や利水に本当に必要であるかどうかの再検討をはじめ、国の大型直轄事業を全面的に見直す。また費用対効果を厳密にチェックした上で必要な道路をつくる。国直轄事業の地方負担金廃止については、道路・河川・ダムなどの国直轄事業の負担金制度を廃止し、約1兆円の地方負担をなくす。高速道路の原則無料化については(予算1.3兆円)割引率を順次拡大、影響を確認しながら段階的に実施するとなっている。今後の公共事業のありかたについては、八ッ場ダム・川辺川ダムの中止が公共事業見直しの入口であり、各種大型の公共事業は計画決定後も5年毎に、時

のアセスメントを見直していく必要があると言う。しかし現段階では先行きどうなるかは全くわからない状況である。

小泉・竹中構造改革による地方の疲弊・格差拡大の大きな要因の一つは、公共事業全体を一律無差別に削減を続けたことにより、絶対量の少ない整備の遅れている弱い地方ほどより大きな被害を蒙ったことである。

今後の国の財政再建や少子高齢化社会の観点からも、不要な支出を抑えるための公共事業の見直しが必要であるならば、これ迄のような全体の無差別一律削減をやめ、不要不急の大型工事の中止など適切な選択により、地方の再生と格差是正のために、実情に応じた社会基盤整備の促進が必要であり、本県のような少子高齢化率の高いしかも整備の遅れている地方には当然傾斜配分をされるべきである。

新政権のキャッチフレーズが「コンクリートから人へ、公共事業から福祉へ」であるなら、その福祉を充実させるためにも遅れている地域の基礎的な基盤整備の促進をはかることは、不可欠な前提条件である。

第30回秋田県優良工事表彰 29件に栄誉

第30回秋田県優良工事表彰式が9月7日、県庁正庁で行われた。

式の冒頭、堀井啓一副知事が「建設産業はかつてなく厳しい経営環境に直面しているが、地域の経済や雇用を支える重要な存在であり、災害時などには地域住民の安全・安心を支える役割も担っている。県では早期発注などの取り組みで受注機会の確保に努める一方、入札契約制

度の改善を進め、技術と経営に優れた企業を支えていく」とあいさつし、平成20年度に完成した県発注工事のうち、対象となる1,547件の中から技術力や施工管理などが特に優れた29件を表彰した。



技士会

優良工事従事の会員技術者29名を表彰 秋田県土木施工管理技士会表彰

秋田県土木施工管理技士会（北林一成会長）は9月7日、秋田キャッスルホテルで表彰式を執り行い、技士会表彰規定により、優良工事に従事した会員の技術者（現場代理人）29名を表彰した。

はじめに北林会長が「建設業界は国や地方の財政難の影響を受け、事業の減少が続く、過当競争の中で多くの問題を抱えております。その鍵を握るとされた品確法が施行され、各発注者において総合評価方式による発注が次第に浸透してきており、これまで以上に技術者の技術力が問われる時代となってまいりました。この度、表彰を受けられた皆様は、高度な技術力を評価され、優良工事に導いた他の模範とするにふさわしい技術者であります。受賞者の皆様は、その技術力を一層磨上げ、後進の指導・育成に、積極的に取り組んでいただきたい」とあいさつ。

続いて、北林会長から技術者へ表彰状と記念品が伝達された。

受賞者は次のとおり。

- | | |
|-------------|--------|
| (株) コスケー 鹿角 | 高田 正喜 |
| (株) 津谷組 | 桜庭 智美 |
| 平和建設(株) | 渡邊 清志 |
| (株) 佐藤庫組 | 芳賀 誠 |
| 秋田機械建設(株) | 安達 進一 |
| 秋田土建(株) | 小林 繁夫 |
| 花岡土建(株) | 岩谷 政彦 |
| 花岡土建(株) | 佐々木 晃吉 |
| 大森建設(株) | 池田 正広 |
| 西村土建(株) | 小林 秋也 |
| 中田建設(株) | 工藤 久敏 |
| 三和興業(株) | 中川 明 |
| 秋田瀝青建設(株) | 菅原 暢 |
| (株) 板橋組 | 村井 聖史 |
| (株) 加藤建設 | 天野 玄一 |
| (株) 菅与組 | 大友 貴宏 |
| ユナイテッド計画(株) | 伊藤 武蔵 |
| (株) 宮原組 | 齊藤 睦 |
| 佐藤建設(株) | 富澤 政道 |



- | | |
|-----------|-------|
| (株) 藤嶋建設 | 煙山 功 |
| 秋田振興建設(株) | 草薙 理恵 |
| (株) 沢野建設 | 小玉 一夫 |
| 高進建設(株) | 小山 健作 |
| 伊藤建設工業(株) | 佐藤 正勝 |
| (有)小田島建設 | 鈴木 公咲 |
| 創和建設(株) | 稲葉 司 |
| (株) 佐々木組 | 高橋 広勝 |
| (株) 和賀組 | 平良 隆志 |
| (株) 沢木組 | 三浦 信幸 |

フォーラム

国家戦略として高速道路整備を求める

第11回日沿道建設促進フォーラム

9月8日、(社)東北経済連合会（幕田圭一会長）をはじめとした青森県、秋田県、

山形県、新潟県の経済団体の主催による「第11回日本海沿岸東北自動車道建設促進フォーラム」が酒田市民会館にて開催された。

冒頭、主催を代表して幕田会長が挨拶。「4県の産業の活性化、住民の豊かな暮らしを実現する上で基礎的社会資本整備は欠かせない。国家戦略として高速道路を整備してもらうよう国、政府に働きかけ」と訴えた。

続いて川上製作所の川上伊登志代表取締役（新潟県）、鶴岡商工会議所女性会の工藤令子会長（山形県）、にかほ市象潟観光案内人協会伊藤良明会長、五所川原商工会議所藤田治一専務理事が、日沿道の整備促進についてそれぞれの立場から意見発表を行った。

この後、三宅久之氏（政治評論家・テレビ解説者）による「激動する政局の動向と日本の進路」と題した基調講演が行われた。フォーラム最後、酒田商工会議所の齋藤成徳会頭が日沿道の早期整備を求める5項目に渡る大会決議を読み上げ、参加者全員承認を得た。



秋田水風景

文と写真/加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター
取材・執筆歴/旅の手帖、WoodyLife、ペンチャー・リンク、郷、あるる他
海外取材歴/ドイツ、アメリカ、ブラジル
写真塾・写楽 主宰 / 写真教室、撮影ツアー企画等

Vol. 6

斉内川潜水橋

【さいないがわせんすいばし】

大仙市太田町小神成



まず写真をご覧いただく。

これは、川をクルマで強引に渡るうとしていて、図でもなければ、突然の増水で道路が冠水してしまっただけという図でもない。これでもれっきとした、橋を渡っているところ「なのだ」。

橋脚を立てて川の流れと、立体交差「するよう」に造られる一般的な橋と異なり、川床をクルマが通れる程度に整備したのや初めから増水時に水没することを前提にして造られた橋を、「潜水橋」と呼ぶ。

比較的交通量が少ない区間でも低コストで橋が架けられ、また、洪水のたびに橋が被害を受け修復費用がかさむということも少ない。自然の脅威に敢えて逆らわない、人間の英知から生まれた発想だ。

ただし、大雨で増水したときには当然渡れなくなるので、その意味では、「好天時限定」の橋ということになる。

写真の潜水橋は、旧太田町の真木溪谷に続く斉内川に造られたものだ。一般的に潜水橋（あ

るいは沈下橋と呼ばれるものは、普段は水面上に露出して造られているものが多く、四国の四万十川に架かる橋などが有名だ。それに対して、斉内川のこの橋は、常時水中にある。正式には「河床路」と呼ぶらしく、こんにちでは全国的に見てもかなり希少な存在なのではないだろうか。

現地に行ってみれば分かるが、確かに、どうしてもこのあたりで川を渡らなければならぬというニーズは、それほど多くはなさそう。むしろ今では、珍し物好きが噂を聞きつけて面白がつて渡りにくるといっほうが多いかもしれない。それでも、地域の人たちにしてみれば、雨の日などは辛抱するにしても「行きたいときにはいつでも川向こうに行ける」というこの橋の安心感は、決して小さくはないだろう。

大きな公共工事もいけれども、小さな「生活の安心感」で間に合うことも、あるような気がする。

建退共

10月1～31日は建設業退職金加入促進月間です

建設業退職金共済制度は現場で働く人たちのために中小企業退職金共済法に基づき設立され、労働者の福祉増進と雇用の安定を図り、建設業の振興と発展に寄与することを目的としています。本制度の被共済者である労働者の方に共済手帳が確実に交付され、共済証紙が適切に購入及び貼付されるよう、加入促進、履行確保運動を重点的に実施することを趣旨とし、10月を建設業退職金共済制度加入促進強化月間として定めております。

建退共制度のご案内

この制度は、建設現場で働く方々のために、「中小企業退職金共済法」という法律により国が作った退職金制度です。

事業主の方は、現場で働く方々の共済手帳を働いた日数に応じて、掛金となる共済証紙を貼り、その労働者が建設業界で働くことをやめたときに、建退共から退職金を支払うといういわば業界全体での退職金制度です。

国の制度 5 つの特長

1. 国の制度なので安全確実かつ簡単

退職金は国で定められた基準により計算して確実に支払われます。手続きはきわめて簡単です。

2. 退職金は企業間を通算して計算

退職金は、A企業からB企業にかわっても、それぞれの期間が全部通算して計算されます。

3. 国が掛金の一部を補助

新たに加入した労働者（被共済者）については、国が掛金の一部（初回交付の手帳の50日分）を補助します。

4. 掛金は損金扱い

掛金は、税法上金額について、法人では損金、個人企業では必要経費として扱われます。
(法人税法施行令第135条第1号、所得税法施行令第64条第2項)
(注) 資本金または出資金が1億円を超える法人の法人事業税には、平成16年4月1日以降に開始する事業年度分から、外形標準課税が導入されますので、ご注意ください。



5. 運営費は国が補助

機構の運営に要する主たる費用の一部は、国からの交付金でまかなわれますので、治めた掛金は運用利息とともに退職金給付に充当されます。

(財) 建設業福祉共済団から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

「尿閉」体験顛末記

永井登志樹

「尿閉」とは読んで字の如く尿が閉じる（尿が出なくなる）＝自力でオシッコができなくなる。つい最近、その尿閉がわが身におこり、大変な目にあった。

そもそも私がなぜ尿閉になったのかといえば、前立腺肥大症の身であることによる。前立腺は膀胱のすぐ下にあり、それが歳を重ねるにつれて肥大し尿道が圧迫され、尿の勢いの衰え・残尿感・切迫感・夜間頻尿などの排尿障害を起すようになり、症状が進むとついには急性尿閉に至る。肥大する原因はよくわかっていないようだが、一説によれば、日本人男性は55歳以上で40%、70歳以上では70%が前立腺肥大であるという。「秋建時報」の読者のみなさんの中にもこの病気で悩んでいる方がいるかもしれないので、私の尿閉体験を恥をしのんで披露することにしよう。

その日は滞在していた東京から秋田へ夕方の新幹線で帰る日であった。夕方まで時間があつたので2軒の映画館をはしごして、途中、カフェでひと休みした時にビールを飲んだ。だがこれが間違いのもとだった。前立腺肥大にお酒はよくない。アルコールは前立腺をうっ血させるのでますます肥大するうえ、利尿作用によって膀胱が急激にいっぱいになることで、括約筋と排尿筋のバランスがくずれてうまく排尿できなくなる。私の場合、利尿作用があるものではほかにコーヒーがだめで、ここ2年ほどコーヒーはカフェオレ以外口にしていない。が、酒はそうもいかず、量を控えて時に飲んでた。

映画を見終えてからトイレに行ったのだが、オシッコの出が極端に悪い。実はこの時から尿閉は始まっていたのだが、これまでもお酒を飲んで一時的にこうした状態になることがあつたので、そのうち戻るだろうとあまり気にも留めず東京駅へ移動。発車まで時間があつたので駅構内の居酒屋に入る。これが第2の間違い。映画館で同じ姿勢で長時間座っていたことに加え、昼のビール。そしてシメが冷やの吟醸酒。今から思えば尿閉まっしぐらなのであるが、この時は旅先の解放感もあって、好物のホヤ酢とアナゴ煮を肴に2合ほどスイスイ。いい気持ちになって新幹線に乗り込んだ。

乗ってすぐにトイレに行くと、出ない。オシッコが全く出ない。座席に戻るとまたすぐに尿意をもよおす。で、トイレへ。が、出ない。ここでようやくわが身におこつた異変に気づく（遅すぎる！）。そのうち尿意とともに下腹全体に波が押し寄せるような痛みが襲ってきた。これは今まで経験したことのない痛み。座っているのもつらくなり、デッキに居場所を移し苦痛をやりすこそうとするのだが、波状的に襲ってくる陣痛（男だからよくわからないがそんな痛み）に思わず身をよじる。

ようやく秋田駅に到着した時には、痛みが増して歩くのもやつとの状態に。秋田駅からさらに1時間の苦痛に耐え、自宅のある男鹿駅に到着するとすぐに男鹿みなと市民病院の夜間救急外来へ直行。診察室のベッドに横たわる私の下腹部を見て、当直医師は「わ～膨らんでいるね～」と感嘆？の声をあげる。確かに膀胱はパンパンだ。尿閉の患者にはカテーテルで導尿（管を尿道に入れてオシッコを外へ出す）する処置がとられる。カテーテルが尿道から抜き取られると、看護師が持つ尿瓶には700mlの尿がたまっていた。普段の膀胱の容

量は300ml～400mlが限度といわれるが、尿閉した人の中には1,000ml、ひどい時には1,500mlもたまる人もいるという。そうなったら命を失うこともあるので恐ろしい。さて、導尿処置で私の膀胱はしばみ、それまでの七転八倒するような苦痛は嘘のようにスーッと消えていた。

ところが、これでひと安心と思つたのもつかの間、翌日の夕方ころからまたオシッコが全く出なくなった。そして再び襲ってきたあの痛み。いったん床に就くが、朝まで我慢できそうにないので、昨夜に続いて夜間救急外来のお世話に。夜中の1時、尿道に再度カテーテル挿入。この時、尿が真っ赤になって出てきた。どうやらカテーテルを入れるとき、尿道の静脈を傷つけたため出血しているらしい。それでも痛みは消え楽になったので、不安に思いながらもそのまま帰宅して就寝する。

早朝、またもや襲ってきた下腹部の痛みが目覚める。耐え難い苦痛にまたもやみなと病院救急外来へ行き、3度目のカテーテル挿入。尿は真っ赤で、導尿してから時間があまり経っていないのに激しい尿意が起こるのは、出血しているせいもあるようだ。さらにその6時間後に4度目、9時間後に5度目の導尿で救急外来へ。この時、担当医が「今は膀胱の排尿筋（膀胱を収縮させる筋肉）が伸びきって収縮できなくなっている状態なので、バルーンカテーテルを膀胱に留置してしばらく様子を見よう」という。これは尿道カテーテルを挿入したままにして、膀胱から管を通してバック（尿袋）に尿をためるようにする措置。この歳（56歳）にして留置尿道カテーテル装着者となるとは、トホホ…。

カテーテルを装着していると、人に会うのにもひと苦労。外での仕事はほとんどできない。それに尿袋をぶらさげたオシッコ垂れ流し状態というのが、思つた以上に気分を落ち込ませる。尿閉になると身体的にはもちろんのこと、精神的にもつらいということを実感する。

ようやくカテーテルを外したのは装着5日目。外す前に膀胱に200mlほどナトリウム液を注入する。これがもし出なければ、再び留置カテーテルを装着しなければならない。カテーテルを抜いてすぐに診察室の一角ある便器に腰を下ろし、下腹に力を入れる。チョロチョロと出てきた。8日ぶりに尿道口から出たオシッコだ！ もうこうなつたら、速攻で手術するしかない。

カテーテルを抜いた翌日、紹介状を持って秋田市内の総合病院の泌尿器科を受診する。これまでの経過と前立腺の肥大ぐあいから、「経尿道的前立腺切除術（TURP）」による手術をすることに決定。「TURP」は電気メスを装着した内視鏡を尿道から挿入して、肥大した前立腺の腺種を切り取る方法で、前立腺肥大の手術としては今はこの方法が主流となっている。あとは医者を信頼してまかせるのみだ。

今回の体験でつくづく思つたのは、自分の健康管理、自己管理の甘さ。若いころと同じ思い上がった感覚でその場しのぎで過ごしているツケが吹き出したように思う。それと、医師不足、患者数の減少などで秋田の地域医療は崩壊寸前だが（みなと市民病院も莫大な赤字を抱えている）、こうして自分の住む町に夜間救急外来を受け付ける病院があることの心遣さ、有り難さも身にしみた。

みなさんも（特に持病を抱えている方は）健康管理にはくれぐれも気をつけて…。